

連載

社会教育施設が変わる！？[8]

指定管理者制度導入による変化を見る

安藤享平（社会教育分野運営委員）編

1. 天文教育施設は良くなっているのか？

これまでの連載で、指定管理者制度をめぐる天文教育施設のさまざまな動きや変化を紹介してきました。

天文教育に携わる者として、「よりよい施設」で天文教育の実践がなされることが第一であると考えます。現在当会を中心に、指定管理者制度に関する声明「天文教育施設の機能と役割を果たすために」の作成も進められていますが、今回は各地での変化の状況を、特に指定管理者制度で運営者が変わった施設を中心に、問題点・改善点を交えながら、紹介することにしましょう。

2. 裏話？を聞く

指定管理者制度で、各地の天文教育施設の状況を、事情通の方にインタビューして伺いました。前回の記事同様、特定の施設名や氏名が出ることに敏感な内容でもありますので、その点ご容赦いただければ幸いです。

A・・・インタビュアー

B・・・指定管理者制度事情通

【全国の天文教育施設にも導入されている指定管理者制度】

A 「指定管理者制度・・・始まってますね。プラネタリウムとか科学館にも導入されているんですよね。」

B 「プラネタリウムの施設としては、早いところでは2005年（平成17年）度から導入された。多くの施設では、2006年（平成18年）度から、導入されているね。」

A 「これまで管理委託制度だった施設が移行

したんですよね。財団がそのまま指定管理者になった所が多いんですか？」

B 「多いね。これまで運営してきた実績が買われて、財団が選ばれた所もあったみたいだけれど、多くの場合、予算削減と共に導入されたんじゃないかなあ。」

A 「まあ、自治体の予算も厳しいのだからね。」

【民間が天文教育施設の運営に参入】

B 「民間が指定管理者になったところもいくつかあるよ。」

A 「そういうところでは、財団はどうしていたんですか？」

B 「指定管理者を公募したときに財団が手を上げなかったケースもあるみたい。財団が業務を整理縮小して手を引いたってことかな。」

A 「へえ～」

B 「公募の結果、財団が選ばれなかった所もある。」

A 「競争が始まっているんですね。」

B 「自治体が、この機会に財団を解散したという所もあるよ。」

A 「財団解散なら、必ず民間が入りますね。」

B 「必ず民間が入ることなら、直営施設に指定管理者制度を導入する場合は、受け皿がないから必ず民間が入ることになるね。」

A 「え？ 直営の施設にも指定管理者制度って導入されるんですか？」

B 「多くはないけれど、2007年（平成19年）度以降、直営だった施設に指定管理者制度が導入されているケースが出てきたね。」

- A 「民間って、どんな会社が指定管理者になるんですか？」
- B 「ビル管理会社とか人材派遣会社とか…イベント会社みたいなのところもエントリーしていたね。」
- A 「天文教育・科学教育とは、縁がなさそうですね。」
- B 「複数の会社が組んで指定管理者になる場合もある。科学館の展示を作っている会社やプラネタリウム・メーカーも含めて運営共同体を作っているケースもあるんだ。」
- A 「やっぱり科学教育等の実績があるところを選びたいですね。」
- A 「地方の施設だと指定管理者になる企業とかがなくて困るのでは？」
- B 「地方の新設施設では、地元でNPO法人を立ち上げ、そこが指定管理者になっているケースもあるよ。」

【次は公募？】

- A 「指定管理の期間って、5年でしたっけ？」
- B 「法律では、期間は特に決まっていない。今回は、最初だからという理由で指定管理の期間を短く設定したところもあるけれど、多くが3年とか5年の期間にしたみたいだね。」
- A 「えっと、2006年（平成18年）度から3年、5年だから、2009年（平成21年）度と2011年（平成23年）度にまた、指定管理者を決めなおすんですね。」
- B 「前回、非公募で財団を指定管理者にした自治体も次は公募にするとやっているようだね。」
- A 「じゃあ、競争を勝ち抜いた企業が指定管理者になるのですね。」
- B 「次回からが、本当の競争になるんじゃないかな。前は制度は始まったところで、自治体側も指定管理側（民間）もわからないことが多かったからね。」

- A 「わからないこと？」
- B 「指定管理者を決めてから『条件を変えたい』と言った自治体があったみたいだよ。あと、運営が始まってから『やはり無理だから条件を変えたい』という相談をした指定管理者あるみたい。」
- A 「具体的な内容聞いちゃっても構いませんか？」
- B 「固有名を出さなければ、大丈夫かな？先の例は、自治体が指定管理者を決定した後に『これまで、施設に勤めていた財団の職員を雇い上げてもらえないか？』と聞かれたらしいよ。指定管理者からすれば、自分たちが請けるならということで予算も含めて計画たてて書類を出しているのに変更を要求されたってことだよ。自治体側も条件があるなら、事前に提示しないとイケないよね。」
- A 「後者は？」
- B 「そこも民間が受託した例なんだけれど、『施設の開館時間を長くする』というのが、その民間企業の提案のウリだった。ところが、実際施設運営を始めてみたところ、延長して開館していてもお客さんがほとんど入らない。光熱費と人件費がもったいないので『開館時間を戻したい』と言い出したらしい。」
- A 「自治体は了承したんでしょうか？」
- B 「その企業が選ばれた理由が『開館時間を延ばす』という事を評価された為なので、『開館時間は戻さない（長くしたまま）で』という話になったみたいだよ。」

【導入後、変わったこと】

- A 「指定管理者制度を導入して何か変わりましたかね？良い事も悪い事も・・・。」
- B 「制度の導入にあたり『予算削減』と『サービス向上』をすることになっているはず。だから、予算が減って、サービスが良くな

っているはずだよ。『予算』は目に見える形で数字を提示できるけれど、『サービス』の方は、来館者の満足度で、明確に測定できない。

しかも『サービス』は、結果なので・・・難しいね。自治体の予算面では、指定管理者制度を導入する機会に予算削減を実施したところは、多いんじゃないかな。」

A 「民間は、お金の使い方が上手だから、低予算でも運営できる？」

B 「いやあ、民間だって魔法使いじゃないからね。予算が少なくなればやれることだって限られてくる。無駄は省いていると思うけれど、サービス低下している所もあるみたい。

例えば、指定管理者制度の導入後、プラネタリウムの入場料金が値上げになったとか。」

A 「値上げは、利用者としては、嬉しくありませんね。」

B 「でもこれまでに比べると評価とか気にするようになってきている面もあるからサービスが向上している部分もあるんじゃないかな。」

A 「実際に勤めている人はどう考えているんでしょう。」

B 「そうね。3年、5年と年限を切られてしまうのは、教育という長期展望が必要な仕事としてはマイナスだな。

あと、雇用不安もね。身分が不安定だと良い人を採れない。募集広告を出すのも微妙。」

A 「求人ですか？」

B 「そう。広く良い人材を求めたいと思う反面、『募集しているよ』っていう情報が流れると『待遇が悪くて人が辞めたのか？』って勘ぐられる。」

A 「大変だあ・・・求人情報の出し方も考えなくてはいけないのですね。」

【指定管理者制度導入のこのご時勢に期待すること】

B 「あ。そういえば、日本プラネタリウム協議会 (JPA) の集会とかで今まで来ていなかった施設の人の姿を見るようになったな、指定管理者制度の導入以降。」

A 「それって、指定管理者制度と関係ありますか？」

B 「あると思うよ。これまでは、集会よりも『予算がない』って方を優先していた訳でしょ。特に新規参入の民間は、施設運営の経験がないだけに連携とかネットワークは重要だという事を感じているんだと思う。情報は欲しいんじゃないかな。」

A 「研究会の出席率が上がったのが、指定管理者制度が導入されて良かったことですね。」

B 「長い目で見て、これが良いかは、わからないけれどね。」

A 「これから、施設は、ドンドン指定管理者制度による運営に変わってしまうのでしょうか？」

B 「そうでもないよ。この機会に、直営化した施設もいくつかある。」

A 「直営化？ そういう手もあるんですね。」

B 「うん。教育機関は、指定管理者制度には馴染まないかもしれないね。

まあ、この制度は、教育施設のための制度ではないから、今後『博物館や教育施設への導入は不向き』って話になっていくかも知れない。」

A 「民間に任せるべきもの。民間に任せてメリットのあるものをしっかり見極めないといけないですね。」

B 「あと、財団が引き続き運営すればOKという所ばかりでもない。運営がうまくいっていない財団もあると聞いている。運営の仕組みを考え直すチャンスになると良いね。」

- A 「制度が変わるときは、いろいろ不安ですが、これを機会に施設が良くなってくれたら嬉しいです。」
- B 「世の中も理科教育に力を注ぐ機運が高まっている。この機会に良い方向へ舵がとれると良いよね。」

3. 声明で求められる内容

社会教育施設での活動を評価する基準が、まだ明確でない状況の中で、何を持って改善への方向性を打ち出すか、難しい部分があるといえますが、少なくとも非常に流動的な状態で、かつ混沌とした状況が続いていると言えます。

- ・ 指定管理者制度導入時の、予算の一律削減
- ・ 民間においては、契約社員や派遣社員が中心となるなど、職員の任期が期限付きとなることによる、人材の流動化、また人材難
- ・ 自治体の施設に対する認識不足による、制度運用の不安定さ

と言った状況が、上記の話からも見えてきます。

声明において、混沌とする天文教育施設の方向性が、よい流れに向かうことができるよう、現状の問題点をはっきりとさせていくことが大切でしょう。

安藤享平（社会教育分野運営委員）